

柔道グランドスラム東京大会（2009年12月13日）

柔道ルネッサンススピーチ

岡田 弘隆

みなさん、こんにちは。只今ご紹介いただきました筑波大学の岡田弘隆でございます。この柔道ルネッサンス活動が始まりまして、9年、もうすぐ10年が経とうとしております。その間に私も、数回このようなスピーチをさせていただきました。本音を言わせていただきますと、もうそろそろこういうことをしなくてもいいのではないかと正直思っておりましたが、ルネッサンス委員会の方からしっかりここでスピーチをしろという風にご指名をいただきましたので、今回この場で最後になろうかと思えますけれどもお話をさせていただきます。

その前に、本大会には海外から多くの選手、コーチ、役員の方々が来られておりますので、日本の皆さんに柔道ルネッサンス活動についてお話をさせていただく前に、先ほどご紹介にもありましたように、この度、私は IJF のアスリート委員会の委員長に就任しましたので、その挨拶と申しますか、選手、コーチの皆さんへのお願いを海外の皆さん向けに少しだけさせていただきますと思います。

Ladies and Gentlemen, Welcome to Japan and thank you very much for taking part in this tournament.

I think most of you have already known that I had become the chairperson of the athlete's commission in the IJF. So I would like all of you to help me to develop Judo in the world. I think some of you have some ideas to develop Judo. For example, now, rules are changing. May be some of you don't like about this. But I think you can feel that the quality of Judo is getting better because of this changing of rules. I think we should agree with this changing and we should follow this. So if you have any good opinions or ideas, please let me know. I can help you. Thank you very much for your attention.

すみません。あまりうまくない英語で失礼いたしました。今から日本の皆さんに少しだけ話をさせていただきます。私は、先ほど紹介にもありましたように、全日本の選手として、そしてコーチとして、トータル約25年間、国際大会に参加してまいりました。そして、昨年の北京オリンピックでその仕事を終えて、現在は筑波大学での指導と、そして筑波大学で社会貢献のために行っている少年柔道の指導、それに力を入れてこれからやろうと思っていた矢先に、IJFのアスリート委員という仕事を仰せつかりました。この役割というのは、先ほどの紹介にもありましたように、柔道を選手、コーチの立場から、柔道に対する意見を吸い上げて、IJFの方に持っていくということが、主な仕事になるかと思えますが、

これは柔道を正しく発展させていく上で非常に重要なことであるという風に認識しております。今、海外の人たちにはお話ししましたが、これは海外の人だけではなく、柔道に携わるすべての皆さんにお願いしたいことでもあります。今後の柔道の発展のために、世界の柔道の発展のために、何でも結構です、「もっとこうした方が良い」、「ああした方が良い」というような意見がありましたら、どんどんお聞かせいただいで、私の立場でそれを伝えていきたいという風に考えております。私自身、この25年間、現場ですっとやっけていまして、いろいろその間にも変化がありました。今回のルール変更は、非常に大きな変化になろうかと思っておりますけれども、これまでも幾度となくルール変更、あるいはその他のいろいろな変化というものが起こってました。もちろん、それぞれパーフェクトではないかと思っておりますが、すべてのことがより良い柔道の発展というものを考えて行われているという風に私は解釈しております。昨日、一昨日と試合をご覧になった皆さんは、お気づきになられているかと思っておりますけれども、やはり直接足を攻撃するというのを禁止したというだけで、かなりお互いがしっかり組み合って、一本を目指す柔道というのが展開されているのではないかという風に思います。海外の方の中には、これは日本のためのルール変更じゃないかという風に思われている方もおられます。しかし、これはそうではなくて、柔道の正しい発展のためのルール変更であるという風にすべての人々が認識する必要があります。そして、素晴らしい柔道が畳の上で展開されれば、多くの方がもっともっと柔道に携わりたいと思うでしょうし、多くの方が柔道を応援して下さるのではないのでしょうか。そして、柔道をする我々、そして、若い人たち、特にこれから将来を目指す人たちというのは、そういった人々に対する感謝の気持ちを持ちながら、柔道が本来目指すべき方向というものを見失わないように今後柔道に取り組んで行く必要があるのではないかと思います。柔道ルネッサンスに関するスピーチというのは、いろんなところでいろんな人が伝えてきました。ものすごく簡単なことから、ものすごく難しい話まで、みなさんいろいろ聞かれてきたと思います。最もわかりやすく説明するならば、元々の嘉納師範の考え方に立ち返るとというのが、この柔道ルネッサンスの一番の狙いであるという風に思っております。今回の大会に限らず、柔道の大会を見ておまして、選手の中には正しく礼法が行われていない選手も多く見受けられます。そういった細かいことから、しっかり正して行って、本来の目指すべき柔道というものを皆さんと一緒に目指していこうではありませんか。そして、最後に一言、本日は日曜日ですので、たくさんの中小学生もこの会場に訪れていることと思っております。そういった小中学生の皆さんに、お願いがあります。柔道は、人としてもものすごく成長をさせてくれる非常に有意義な武道であり、スポーツ競技であります。ただし、柔道だけやっけていれば自分を成長させてくれるかということ、決してそうではありません。やはり、昨日、横澤さんも話をしておられましたけれども、当たり前のことを当たり前にする、普通の生活の中で当たり前のことを当たり前にする、これがまず一番大事だと思いますし、スポーツ、あるいは自分のしたいことだけするのではなくて、やらなければならないこともたくさんあると思っております。小中学生

の皆さん、あるいは高校生、大学生の皆さんもそうですけれども、そういった人たちにとっては、勉強をするということも当然やらなければならないことです。柔道さえ強ければいいという風に、もし思っている人がいるとしたら、その気持ちを今すぐ改めて、できるかできないかは別として、やろうとする努力をしてください。柔道をする人は、みんな一生懸命勉強するんだということが、日本中、あるいは世界中に広まれば、柔道そのものの価値、評価というものが、さらに高まるものと思われれます。幸い、平成24年度から中学校の授業の中に、柔道ではありませんけれども、武道が必修化されることが決定しております。この機会をうまく利用して、もっともっと柔道をみんなでアピールしていきましょう。よろしく申し上げます。どうもご清聴ありがとうございました。